2020年12月

民際協力ニュース

パルシックニュース VOL.37

パルシック PARC Inter-peoples' Cooperation

「爆撃かと思った…。」大規模爆発とベイルートの今

「18時10分頃、音がして車が揺れた。その5秒後にブーンという音がして爆発があった。」男性は仕事を終え、帰宅している途中に爆発事故に遭遇し、何が起こったのか分からず、避難した建物から30分ぐらい動けなかったと言いました。

8月4日、レバノンの首都ベイルートの港で発生した大規模爆発。轟音がベイルートに響き渡り、地震のように建物が揺れ、爆風の影響で壁や窓が一瞬で吹き飛ばされました。

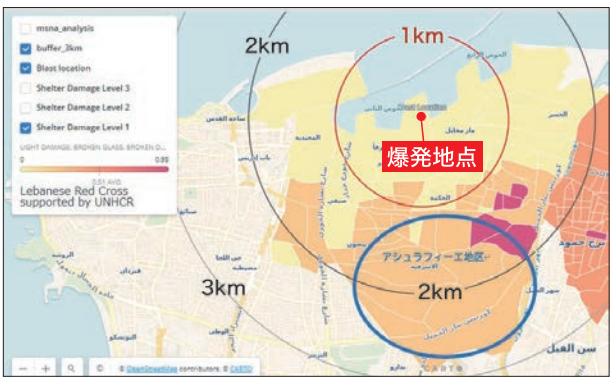
爆発は、港に長年放置されていた起爆性の高い硝酸アンモニウムが原因とされています。しかし、事故発生当時は何が起こったのか分からず、人びとは混乱の中、家族や友人の安否確認に努め、不安な夜を過ごしました。翌日、街には掃除道具を持って散乱したガラスの破片を片付ける人、炊き出しをする人の姿がありました。「レバノンとしてみんなで一致団結して乗り越えたい」と力強く語るボランティアのおじさん。汚職が蔓延し政府が機能していないレバノンでは、地元のNGOや全国から駆け付けた人びとが支援活動にあたりました。

レバノンは事故発生以前より、深刻な経済危機に陥っていました。物価の上昇、新型コロナウィルスの影響による経済の停滞、失業率の増加……。既に多くの人が生活苦を抱える中で追い打ちをかけるように事故が発生し、人びとの生活はがらりと変わりました。15万人もの人が、家や仕事を失い支援を受ける立場となったのです。

パルシックは、爆発直後に緊急支援への寄付を募り、8月末にアシュラフィーエ地区に住む150世帯に食糧と衛生用品を配布しました。食べ物すらまともに買えない家族もいる中で、支援を受けた人びとから大変に喜ばれました。

事故発生から3か月。未だに支援を受けられず、生活を立て直すことが出来ない人が多くいます。パルシックは10月より、食糧や衛生用品の配布と壊れた家屋の修復支援を始めました。今回の事故により、被災した人びとが1日も早く生活を立て直すことが出来るように支援を続けていきます。（大野木、風間）

（この事業は皆さまからのご寄付とジャパン・プラットフォームの助成で実施しています。）



8月25日の時点で調査できている被害を受けた地域。
引用元：UNHCR_Beirut Blast Shelter Damage Assessment Map_25th Aug

食糧配布の様子

爆発の被害を受けた建物

目次

レバノン　「爆撃かと思った…。」大規模爆発とベイルートの今…… 1
シリア　復興に向けて自立の一歩／**レバノン**　食糧配布と家庭菜園で生活を豊かに…… 2
ガザ　新型コロナウィルス規制下での女性たちの畜産活動／**インドネシア**　コロナ禍における女性生計支援…… 3
東ティモール　旧大規模農園を豊かな森に／学校給食の栄養改善を目指して…… 4
みんかふぇ　子どもたちの笑顔が見たくて／**スリランカ北部**　サリー・リサイクル事業フォローアップ研修／**民際教育**　国境を越えたオンライン授業…… 5
フェアトレード　紅茶の産地から　スリランカ　有機認証更新のための監査をうけました／ハーブ豆知識…… 6
パルシックのフェアトレード商品／フェアトレードのコーヒー生産者を訪ねるオンラインツアーを開催！…… 7
パルシックからのお知らせ…… 8

シリア　復興に向けて自立の一歩

2011年3月にシリア内戦が始まってから10年が経とうとしています。一部の地域ではまだ紛争は続いていますが、シリア政府は、現在国土の7割を支配し、シリア政府支配地域は、おおむね治安が安定しています。しかしながら、シリア政府と反体制派の和平に向けた話し合いは進展がなく、依然として人びとの苦しい生活が続いています。欧米からの経済制裁、世界規模で流行が続く新型コロナウィルスは、シリアの経済に大きな影響を及ぼし、現在も2人に1人が食糧不足の状態にあります。

パルシックは、2020年より、食糧配布に頼らず一人ひとりが自立できる生活を目指して、農業生産支援を開始しました。長期間放置されていた畑を耕し、夏の暑い中、日の出から日没まで毎日作業を行いましたが、「野菜の収穫が待ち遠しく、いてもたってもいられず、毎日収穫の事を考えながら作業をしている。」と、生き生きと活動に参加する人びとの想いが実り、トマト、キュウリ、モロヘイヤ、ズッキーニなど、次々と収穫を迎えています。収穫したナスを冬から春にかけて食べられるよう酢漬けにしたり、オクラも長期保存できるように乾燥したりして工夫をしています。（大野木）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

ズッキーニの収穫。今年はすでに1000キロも収穫しました。

夫婦で農作業。ズッキーニを育てています。

人びとの声

農業研修に参加した人たち

農業経験が多少ある人も、天候や害虫問題など最新の解決方法を学ぶ必要があるため、農業専門家による研修には熱心に耳を傾けます。「まず大事なことは農作物一つひとつ丁寧に育てることだと分かったので、研修の翌日の早朝から、葉っぱの一枚一枚を確認したよ。」と参加者。収入がほとんどない状況におかれ家財道具を売ったり、借金をしたりしてやりくりしているため、収穫した野菜のおかげで食費の支出が減るので、浮いたお金で今まで購入できなかった薬を買えるようになったという声も聞かれました。

研修の様子。有機肥料と化学肥料の違いや、農作業地域で確認されている害虫とその対処法、生育期間、水やりの頻度と注意事項等について学びました。

レバノン　食糧配布と家庭菜園で生活を豊かに

「新鮮な野菜を自分で生産できるようになったので、子どもに栄養のある食べ物を食べさせることができます」――これは、パルシックが2020年4月から11月に実施した、家庭菜園研修に参加したお母さんの声です。

パルシックは、レバノン北東部のシリア国境沿いに位置するアルサール市にあるシリア難民キャンプに住む350世帯に対し、食糧バスケットの配布を4回行いました。併せて、妊婦や乳幼児を抱える女性約75人に対し、家庭菜園と栄養研修を行いました。

まる9年も続くシリア危機に伴う避難生活で、レバノンのシリア難民の家計は一層厳しくなっています。安くお腹を満たせるパンやパスタ、油等に偏った食生活により、子どもたちが体調を崩しやすくなっています。首都から遠く離れ、痩せた地質の山間部に位置するアルサールに滞在するシリア難民は、特に厳しい生活を強いられてきました。

研修を受けた母親たちは、配布食糧と家庭菜園で一部自給できるようになった新鮮な野菜を組み合わせ、必要な栄養をどうすれば無駄なく吸収できるかを学びました。家庭菜園では、トマトやナス、シリア料理に欠かせないハーブなどの野菜を作っています。女性たちは、研修内容に高い関心を持ち、4回の研修の内3回以上出席した参加者は約8割に上りました。（風間）

（この事業はジャパン・プラットフォームからの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

家庭菜園の講師に、誇らしげに生育状況を説明し、より多くの収穫をあげるために積極的に質問をする女性たち。荒涼とした難民キャンプに家庭菜園の緑が映える。

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、広く換気の良い場所で参加者同士の間隔を取って研修を実施しました。小さな子どもを連れて参加する女性も多くいました。

■ガザ　新型コロナウィルス規制下での女性たちの畜産活動

ガザ地区では女性たちの酪農・乳製品の生産・販売活動を通じて生計向上を目指しています。8月24日、ガザ保健省は新型コロナウィルスの市中感染が確認されたと発表しました。世界でも類を見ない人口過密地域であるガザ地区での爆発的感染を防ぐため、県を超えた移動は規制され、夜間完全外出禁止令が敷かれました。しかし感染は増加傾向にあり、10月31日現在約７０００名の罹患が確認されています。

規制により、各地域で毎週開催されていた家畜市は閉鎖されました。畜産農家は通常この家畜市で顧客に家畜や乳製品を直接販売し、同時に飼料や家畜のための医薬品を購入して帰ります。しかし現在は、顧客や獣医などへのアクセスが制限されています。

風邪を引いた子羊に抗生物質の注射を打つ

アルショカ村女性グループリーダー　エクラムさん

パルシックの事業地域の女性たちも苦心しています。規制が一部緩和され、今は一部の獣医による訪問診療が可能となりましたが、通常よりも料金が割高となっています。アルショカ村の女性グループリーダー、エクラムさんは言います。

「保守的なコミュニティで女性として羊の畜産を経営するのはとても大変なこと。羊の世話をし、飼料を購入し、獣医と連絡をとって、市場に出向き畜産販売業者と交渉することが日々の業務です。移動規制は私たちの仕事を困難にしています。そんな中だからこそ、私たちは何とか代替策を見つけ、女性畜産農家として、互いに支えあっていかなければいけません。」

（サハル）

（この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

■インドネシア　コロナ禍における女性生計支援

インドネシア初の新型コロナウィルス感染者が3月初旬に確認されて以来、10月28日現在も感染者数が増加しており、一日の新規感染者数は４０００人前後を推移しています。

事業地のある中央スラウェシ州では、一時期感染拡大を抑え込んだものの、再び感染が拡大しています。このような状況下で9月25日から4期支援事業を開始しました。前期事業では、女性たちに経費の計算等の研修を行いつつ、調理器具や食材を配布し、軽食や生菓子等を生産・販売し収入を増やしました。今期事業では、新たに各家庭レベルで行う小規模の養鶏や野菜栽培を導入します。更なる収入向上を目指しながら、同時に各世帯の食費の割合を減らす計画です。

シギ県ソウロウェ村の女性の食堂の様子

しかし、前代未聞のコロナ禍で厳しい状況は続いています。例えば、州内の他県から州都パル市内に入る際、迅速抗体検査の陰性証明が今後必要になりそうです。事業地であるシギ県ドロ郡の二つの村はパル市から車で40分ほどのところにあり、毎日パル市で商売をしている女性たちもいます。検査代だけでも女性たちにとっては大きな負担です。私たちも現地提携団体の職員も経験したことのない状況下で女性たちの生計を向上させようと日々試行錯誤を重ねています。

（飯田彰、松村多悠子）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

人びとの声

ヌルフィアンティさん（シギ県ソウロウェ村）

ターメリックライス、トウモロコシのスープ等を販売しています。少しずつ家計が安定し、新しい道具を買い足すなどできるようになりました。震災後、間もない頃から始まった子どもの居場所には、安心して娘を預けられました。恥ずかしがり屋だった娘が、子どもの居場所に参加するようになって、新しい人との出会いをあまり怖がらなくなりました。帰ってくると、子どもの居場所であったことを話し、作ったものや覚えた歌を披露してくれ、楽しい様子がわかりました。

子どもの居場所に参加していた次女のナンダさんとヌルフィアンティさん

東ティモール　旧大規模農園を豊かな森に

パルシックがロブスタ種コーヒーのフェアトレードで協働するエルメラ県のサココ青年組合（KOHAR）は、1975年までのポルトガル植民地時代に大規模コーヒー農園開発のために人びとの土地が接収された地域にあります。75年から99年までのインドネシア軍事占領下では独立のために闘うゲリラ兵がこの地域に身を隠し、ゲリラ兵あぶり出しのためにインドネシア軍は農園に火を放ちました。

2002年の独立後、この土地を住民の手に取り戻そうと立ち上がったのがKOHAR組合長アマロさんと地域の青年たちでした。アマロさんの明確なビジョンに育てられたKOHAR事務局長のベントさんは、コーヒーのフェアトレードで得たソーシャルプレミアム（コーヒー豆の買い手から組合へ買取価格の一部が戻ってくる仕組み）を利用して地域の農民学校でアグロフォレストリー（樹木を植え、その間で農作物や家畜を栽培・飼育する農林業）を学び、「サココの旧農園跡地を豊かな森に変えたい」という夢を持つようになります。廉価なロブスタ種コーヒーに依存した組合運営の先行きを考えると、ベントさんの夢は組合の夢でもありました。

2019年、（財）日本国際協力財団の支援を得てKOHARとアグロフォレストリー事業を開始しました。水に苦労している集落の上水道を整備し、苗床を建設してコーヒーの日陰樹やライム、バニラ、チークなど、様々な種類の苗を育てています。将来的にはカカオなど換金性の高い作物も植えて、歴史に翻弄されてきたサココの森を地域の人たちが豊かに暮らしていくための森に変えていきます。

（伊藤淳子）

（この事業は公益財団法人日本国際協力財団の助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

苗床で娘に草抜きを教えるベントさん（左端）

東ティモール　学校給食の栄養改善を目指して

2019年から開始した、「ふりかけ」普及と食生活改善による栄養改善事業。今年度はディリ県の小学校に焦点をあてて活動してきました。その中の一つに、小学校の給食調理担当者を対象とした料理教室があります。料理教室は全10回。毎回異なる栄養素を取り上げて、それに沿った料理を4品ほど作ります。メニューは塩分や油を控えたものになっていて、美味しいと毎回好評でした。

そして先日、対象校のひとつで最後の教室が終わり、参加者に修了証を渡しました。最後の教室では、一人ずつバランスを考慮したメニューを考えてもらいました。少し難しいかと思いましたが、ほとんどの参加者が炭水化物、タンパク質、ビタミン、ミネラルの揃ったバランスの良いメニューを考えることができていました。

東ティモールの学校給食は政府の予算の状況に応じて、あったりなかったりと不規則です。今年はさらに新型コロナウィルス感染症の影響で学校が閉校となり、限られた日数のみしか実施されませんでした。来年は予定通り学校給食が実施されることを切に願っています。また、その際には料理教室での学びを活かし、栄養バランスの良いメニューが子どもたちに提供されることを期待しています。

（桑原真菜実）

（この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

栄養バランスについて学ぶ給食調理担当者や保護者たち

人びとの声

ライムンダさん

ペサヘ小学校の給食調理担当

ライムンダさんは料理教室のすべての回に参加してくれました。

「料理教室はとても楽しかったです。教室を通して栄養について学ぶことができました。また、いろいろな調理方法を知ることができたので、学校給食でも取り入れていきたいです。」

修了証を受け取ったペサヘ小学校の調理担当者3名。左がライムンダさん

みんかふぇ　子どもたちの笑顔が見たくて

6月1日、葛飾区の小中学校が再開されてから半年が過ぎようとしています。学校は感染リスクを避けながら、徐々に通常通りに戻りました。みんかふぇも学校に倣い、段階的にカフェや子どもの居場所、子ども食堂を再開しました。換気や消毒を徹底して、子ども食堂では手作りの飛沫防止パーティションを使いながら、運営を続けています。夕食用お弁当の配付も継続しています。

再開当初は子どもたちが遊びに来ることもなく、地域の方々のカフェ利用もまばらでした。これまで支えてくださっていたボランティアさんの参加も少なくなってしまいました。みんかふぇをオープンして丸2年、これまで積み上げてきた地域の方々との関係性が失われてしまったような気がして、寂しく感じていました。

スイカ割りをストレス発散のための野外遊びとして、しました。大盛り上がりでした！

手作りの飛沫防止パーティション

しかし徐々にではありますが、子どもたちが戻って来てくれています。町会の掲示板にみんかふぇの案内を掲示してもらうなど、地域の方々のご協力をいただき、新たなボランティアさんも参加してくれるようになりました。

子どもたち、はじめは笑顔が少なかったような気がしましたが、この間のストレスを発散するかのように今では元気いっぱいです。元気が有り余って若干ついていけませんが、子どもたちと地域の方々が再び交流できる場となることを目指しています。

（大坂智美）

（この事業は、ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金、子供の未来応援基金、ジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

スリランカ北部　サリー・リサイクル事業フォローアップ研修

サリー・リサイクル事業では、津波や内戦によって家族を失った女性たちが古着のサリーをリメイクして、バッグなどの縫製製品を作っています。2019年8月にプログラム評価のために現地を訪ね、話を聞いたところ、同年4月のスリランカ・イースター爆破事件後、海外からの観光客が途絶えたため、主に土産物として売っていた製品が売れず、経済的に苦しい状況にあること、また同事業の後半にグループに加わったムライティブ県の女性たちは技術が不十分なため応用した商品が作れないことが分かりました。

そこで、今年度にフォローアップ研修を実施しました。新型コロナウィルスの影響で計画が思うように進まない時期もありましたが、ようやく9月にムライティブ県の4地域を対象に、研修を実施することができました。第1回目の研修では、マスク作りの研修を行いました。

（西森光子）

（この事業はゆうちょ財団からの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

研修で作ったマスクをつける女性たち

国境を越えたオンライン授業

新型コロナウィルスの影響により、日本から現地の事業地を訪問することが難しくなり、今年度は民際教育の海外研修プログラムが全て中止になりました。この状況に対応して、夏頃から東ティモールやレバノンと日本の学生をつなぐオンライン授業を始めました。7月から12月までの間に、6校の大学・高校で7回のオンライン授業を実施しました。8月に千葉県の成田国際高校で実施した東ティモールと繋いだオンライン授業では、事務所代表の伊藤淳子が東ティモールの歴史、パルシックの事業、東ティモールの社会について話しました。参加した学生たちから質問が飛び、貧しくとも助け合って暮らす東ティモールの人びとの姿に考えさせられたという感想が多く寄せられました。新型コロナウィルス感染下の時代だからこそ、さまざまな国での暮らしや社会を学ぶ機会を増やしていきたいと考えています。

（西森光子）

成田国際高校でのオンライン授業の様子

紅茶の産地から Tea/スリランカ

有機認証更新のための監査をうけました

デニヤヤでは、有機紅茶小規模農家グループ（エクサ）が９月末に年に１度の有機認証を更新するための監査をうけました。コロンボにある認証機関から監査員が来て、メンバーの圃場を視察し、圃場周辺の柵や水はけのための溝がきちんと整備され周辺からの汚染リスクが管理されているか、またメンバーが農業記録を適切につけているかを確認していきました。今回、スリランカの有機認証機関では、唯一の女性監視員が来てくれました。これまでも、監査の際は有機認証に関わる点だけではなく、有機農業のアドバイスも受けることはよくあるのですが、今回もとても丁寧に専門的なアドバイスをくれたと視察を受けたエクサのメンバーが喜んでいます。10月現在、茶葉サンプルの農薬検査の結果を待っており、検査結果に問題がなければ、メンバー65世帯の圃場の有機認証（JAS、EU、アメリカの有機認証）が更新されます。

なお、スリランカでは新型コロナウィルスは５月頃に一度落ち着いたのですが、10月に入ってから再び市中での感染者が急増しています。感染拡大は主に大都市コロンボで起こっていますが、念のためデニヤヤでもエクサの月例会の開催は10月から見合わせています。

（紅茶事業担当　高橋知里）

エクサメンバーのプシュパさんの圃場を視察している様子

アールグレイ紅茶／ルフナ紅茶／ウバ紅茶

ティーバッグ	2g×25p	各756円
リーフ	100g	

アールグレイ紅茶羊羹

200g	864円
80g	302円

ハーブ豆知識

ハーブの歴史は古く、古代エジプトやメソポタミアでも薬や防腐剤として使用されていたという記録が残っています。そんな自然の素晴らしい恵みを手軽に取り入れられるハーブティーに、近年注目が集まっています。

今回は、パルシックのフェアトレード商品の中から、2つのハーブについてご紹介します。

アロマ・ティモール

ツボクサ＆ミント	各30g	各756円
月桃		
レモングラス		
アボカドリーフ＆ライムリーフ		
ハイビスカス	20g	

ツボクサ

ツボクサは、アーユルヴェーダでは“若返りのハーブ”とされ、脳細胞を活性化するといわれています。記憶力を高める効果があるともいわれ、アメリカでは「ボケ防止薬」として飲まれているそうです。血液浄化、むくみや皮膚疾患への効果も期待されています。

ハーブティーはもちろん、スリランカでは細かく刻んでココナッツやモルディブフィッシュ（鰹節のようなもの）、スパイスと絡めたふりかけのようなものにして、日常的にカレーと一緒に食べられています。

月桃

月桃はショウガ科の植物で、沖縄では“サンニン”と呼ばれ、古来より薬草として広く親しまれてきました。高ポリフェノールで、その含有量はなんと赤ワインよりも多いといわれています。また、鉄分やカルシウム、マグネシウムなどのミネラル、食物繊維も豊富です。

生理痛や更年期障害の症状緩和、抗酸化、便秘解消などなど、女性にうれしい効果が期待できます。美容商品にも多く使われています。

パルシックのフェアトレード商品

＊価格は税込です

対等な交易を通じて、人と人のつながりと信頼を広げていくことこそが紛争の抑制、平和の形成に寄与すると考え、「商品の生産、流通、消費などが、市場の価格だけに依存するのではなく、人間的な交流と信用に基づく」という取引のかたちを目指して、直接的な交流、交易を重視しています。

カフェ・ティモール

豆／粉	各200g	各756円
ドリップタイプ	10g×10個	864円

カフェ・ティモール コーヒーゼリー
313円

カフェ・ティモール コーヒー生豆300g & 焙煎器セット
6,095円

エルダウトゥバ集落
代表ジョアンさん

コーヒーを生産しているコカマウ組合では、老朽化している木の植え替えや、収穫後のコーヒー豆の新しい精製方法を一部の集落で取り入れています。オンラインツアーを実施したエルダウトゥバ集落でもその様子を垣間見ることができました。

フェアトレードのコーヒー生産者を訪ねるオンラインツアーを開催！

新型コロナウィルス感染症の影響で例年とは異なり、オンラインによるツアーを開催しました。首都ディリの観光や集落でのコーヒー収穫から焙煎までを生産者と共に映像でお伝えし、質疑応答の時間には参加者の皆さまから沢山の質問やコメントをいただきました。ツアーに参加された、コカマウの生豆を焙煎していただいているお店から感想とメッセージを伺ったのでご紹介します。

株式会社 キオラガーデン：中澤美貴さん

2013年に「東北をコーヒーで元気にして行こう！」とFLATWHITE COFFEE FACTORYの第一号店仙台泉店をオープン。栽培するのも「人」、ストーリーを伝えるのも「人」、“LIFE IS TOO SHORT FOR BAD COFFEE”という哲学のもと、美味しいモノを追求しています。東ティモールのコーヒーを知らない方はまだ多いですが、歴史的な背景や生活向上のための取り組みについてもお伝えするようにしています。深炒りの中でコカマウは一番人気です。新しく試したハニーやナチュラルは、まだ改善の余地はありますが、浅炒りで出すと思いがけない味で、お客様の評価は高かったですよ。

今回のツアーで実際の環境や生活ぶりを知り、益々東ティモールへの想いが深まりました。現地の気候が寒暖の差が大きく、コーヒー栽培に適していることも見て取れましたし、集落で地元の人がコーヒーを焙煎する様子も新鮮でした。コカマウの皆さん、美味しいコーヒーをいつもありがとうございます。新しい精製方法への取り組みも拝見しました。これからも一緒に頑張っていきましょう！

FLATWHITE COFFEE FACTORY
仙台 荒井店 / ダウンタウン店 / 泉店 / 空港店
福島 郡山店 / 三春店
Website: https://www.flatwhite.jp/

サーカスコーヒー：渡邉良則さん

コーヒーを通じて人が集う場になり良い循環が生まれれば、という思いをサーカスという名に込め、京都の町屋を改装し2011年にオープン。コカマウの豆はずっとサンプルをいただいていましたが、現地に二次加工場ができた2016年頃から飛躍的に質が良くなったと感じます。最近顔が見えるコーヒーとよく言われますが、生産地の情報だけでなく日本側の顔があちらにも届き、やる気に繋がるように、積極的に日本の情報も現地に伝えようと心掛けています。コカマウの豆は、飽きの来ない味で毎日飲むコーヒーとしても好まれています。

長期の休みを取れない人も多いので、オンラインのツアーは参加しやすく、段取りも良くライブ感もありとても良かったです。未だに東ティモールって行って大丈夫？という声もあり、独立後の良くなった情報は流れてこないので、継続して開催していただき東ティモールの良い部分が伝わればと思います。コカマウの皆さんが良いものを作る努力をして下さっていることは売るモチベーションにも繋がりますので、お互い頑張っていきましょう！

サーカスコーヒー
〒603-8425 京都市北区紫竹下緑町32番地
TEL：075-406-1920
Website: http://www.circus-coffee.com/

イベント・出店・登壇報告（2020年5月下旬～12月）

新型コロナウィルス感染下、ステイホームの日々に現地の声を届けるため、オンラインイベントを積極的に行いました。コロナ禍のなか大規模爆発に見舞われ人びとの生活がより厳しくなったレバノン、コーヒーの収穫シーズンの東ティモール、厳しい制限のある生活のうえにコロナ禍の影響がのしかかるパレスチナなど、各地の情報を現地スタッフからお伝えしました。当初は戸惑いながら始めたオンライン集会ですが、現場のスタッフは緊急時などいつでも情報発信ができ、参加者も日本国内どこからでも、時間さえ合えば海外からでも参加していただけるという、とても大きなメリットを感じた半年でした。

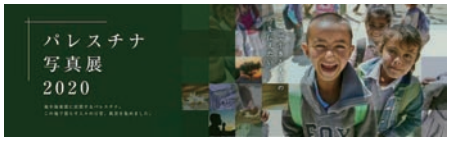
主催イベント（オンライン開催）

8月11日	ベイルート大規模爆発：現場から
8月26日	現地からの配信！
	フェアトレードのコーヒー生産者を訪ねるオンラインツアー
9月5日	一問一答パレスチナ！
	～その疑問、直接尋ねてみませんか？ ～ライフスタイル編
9月19日	一問一答パレスチナ！
	～その疑問、直接尋ねてみませんか？ ～家族編
10月1日	東ティモール フェアトレードコーヒー生産者を訪ねる
	オンラインツアー（録画配信）
10月16日	ベイルート大規模爆発から2か月：現場から伝える
11月19日	季節の紅茶を楽しもう！（秋冬編）
11月26日	インドネシア・スラウェシ島
	屋台から見えてくる震災後の女性たちの暮らし
11月28日	知らなかった！アジアンコーヒー入門 2020（共催）

講師・登壇

8月28日	JICA 東京主催 市民のチカラ、世界とともに！
	～知識と経験の交換会（アジア編）［東ティモール］
10月21日	JPF×JTB 中央大学付属高校
	国際協力セミナー［フェアトレード］

パレスチナ 写真展



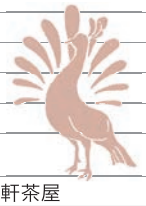
西岸・ガザ地区の日常や風景を切り取った写真、スタッフの家に飾ってある昔むかしの思い出写真、プロのカメラマンによる魅力あふれるパレスチナの写真を集め、オンライン写真展を開催しました。これらの写真は、2021年1月2日より、新宿のビア&カフェ ベルク店内での写真展に登場予定です。

フェアトレード商品ポップアップ出店

10月28日～11月3日	大丸梅田店
11月6日～11月12日	東京大丸
11月26日～12月2日	渋谷スクランブルスクエア
11月30日～12月13日	丸井錦糸町店

他団体主催イベント出店

10月24日	Trash or Treat ～ゴミ？ごちそう？～ @三軒茶屋



パルシック サポーター制度がスタートしました

パルシックの活動を支えてくださるサポーターを募集しています。活動に参加したいけれど何をしたら良いか分からない、時間がとれなくてボランティアに参加できない、という方はぜひサポーターとしてパルシックを支えてください。

パルシックサポーターは月々500円から始められます。ぜひサポーターになって、パルシックの民際協力・フェアトレードの各事業地での活動に参加しませんか。

▶サポーター会費

サポーター会費は寄付金控除の対象となります。

月々500円コース
（月払い または 1年分6,000円一括払い）

月々1,000円コース
（月払い または 1年分12,000円一括払い）

サポーター募集ページ

▶お支払方法

1. クレジットカード（自動決済あり）
2. 銀行振込／郵便振替（1年分一括払い、自動決済なし）

パルシック Webサイトから「サポーターになる」ページをご覧ください。

皆さまのご支援によって支えられています

パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

年会費

会　　員：10,000円
賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

ご寄付のお願い

あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地を指定してご寄付いただくこともできます。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることができます。

●クレジットカードでの寄付（Webサイトより）
https://www.parcic.org/donation/donate/

クレジットカード寄付 QRコード

●郵便局からの寄付　郵便振替口座：00140-8-536957
口座名義：パルシック

●銀行からの寄付　三井住友銀行　神田支店（普）2384136
口座名義：特定非営利活動法人パルシック

※銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。

特定非営利活動法人 パルシック（認定NPO法人）
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F
電話：03-3253-8990　Fax：03-6206-8906
メール：office@parcic.org　Web：https://www.parcic.org

オンラインショップ ParMarche（パルマルシェ）
https://parmarche.com
twitter（東京事務局）　@parcic_office
facebook　@parcic
Instagram　@parcic_tokyo